

「自由で開かれたインド太平洋」
と対中戦略
—2022年日本外交のゆくえ

川島真（東京大学）

shinkawashima@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

2022年の世界

- 0) アフターコロナへの展望
- 1) 習近平の任期問題
- 2) 米中関係の「競争」と「協力」の展開
- 3) 世界中で展開される選挙との関係
 - ①韓国（3月9日）、②フランス（4月）、
 - ③フィリピン（5月）、④アメリカ中間選挙（11月）、
 - ⑤アフリカ（マリ、ケニア、チャドなど）
 - * 台湾の地方選挙（11月26日）
- 4) 日中国交正常化50周年

習近平政権のもたらしたものの：政治

- (1)「党の領導」の強化、国家から党へ
 - 集団指導体制は維持しながらも権力を集中
 - 反腐敗＋法治建設
 - 党内民主化は逆行する。
 - だが、民衆に「寄り添う」姿勢。
デジタル・データの活用／法治建設／
教育・メディア／娯楽／警察etc
- キャリアパターンの瓦解、習近平への忠誠心
「不作為」などのサボタージュ

(2) 第20回党大会：習近平の総書記としての任期延長、あるいは？

このような「硬い」、画一的な手法で安定的な統治、社会が築けるのか？

社会

- (1) 経済発展に伴う社会の多様化
 - ・ 強くなる「民間」
 - しかし、政府と民間との癒着を防止しつつ、共産党が民間を管理する。
- (2) デジタルによる管理・統制
 - ① 反共産党・政府活動の防止
 - ② ビックデータの活用
- (3) 「中華民族」としての平面化
 - 「愛国」「忠誠」というキーワード
 - コロナ禍による民族主義的傾向
- (4) 「心」への浸透
 - 芸能界の利用、フェイクニュース

経済

- (1) 長期的には人口問題、社会保障問題
 - → 全面的小康、共同富裕など
- (2) 経済の減速傾向：個人消費
 - そこにコロナ問題が発生
 - → 「双循環」「共同富裕」
 - 東北部、華北の経済成長鈍化
- (3) 技術革新、経済構造改革の必要性
 - CPTPPへの加盟申請
- (4) 「民間」の重要性
 - 民間の開発力、軍民融合
 - しかし、民間企業管理
- (5) 自由貿易体制、グローバル・サプライチェーン支持

外交

- (1) 国連重視 + アメリカとの全面衝突回避
- (2) 新型国際関係
- (3) 一帯一路
 - → 案件ごとに異なるスタンス
- (4) 党による対外政策主導：外交部への管理強化
(戦狼外交)
- (5) コロナによる対中感情の悪化

厳しくなる中国への 視線、しかし・・・

- ほとんどの先進国、東南アジアなどで対中感情の悪化が顕著
- → 例外：イタリア、日本
- しかし、アメリカや先進国自身も・・・

2018年貿易輸入先

経済貿易枠組み

- (1) 自由貿易「枠組み」、グローバル化の受益者としての中国
 - 輸出加工型経済発展 → 双循環
- (2) CPTPPへの加盟申請
 - 中国としては「改革」への意欲 + アメリカ不在 + 台湾
 - 「デジタル経済連携協定 (DEPA)」へも加盟申請
- (3) 経済の紛争処理枠組みにおけるイニシアティブ
 - 裁判の奪い合い：一帯一路空間における「裁判」を深圳に
- (4) 「経済安全保障」という課題 + 法の域外適用

米中対立をどう見るのか

- (1) 全体として厳しい対中姿勢：「覇権」の維持
- (2) 「衝突は避ける」／「競争」＋「協力」
- アメリカとしての是々非々
- 非々＝軍事安全保障、先端産業、人権、台湾など
- ファイブアイズ、オーカス、クワッド
- 是々＝気候変動、北朝鮮、イランなど
- アメリカ単独？
- (3) 中国から見れば「協力」領域の拡大？
- (4) 米中貿易の拡大：中国市場、経済を頼る世界

なにがポイントになるのか？

- (1) 世界から見て、途上国から見て、アメリカ／先進国は選ばれるのか？
 - 2021年12月の民主主義サミット
 - → 日本にできることはないのか？
- (2) 複雑に入り組む秩序空間が出現
 - → 日本の立ち位置を明確にできるのか？
- (3) 「是々」と「非々」との間のバランス、関係性は？
 - 経済と安全保障との関係性
- (4) 空間的に見た場合の重要性の多様性：ウクライナ、台湾

対中政策と他者の視線

- (1) 地域の、世界の平和と安定、そして発展。
 - ① 軍事安全保障：中国の過度な侵出抑制なら歓迎
 - ② 先端的技術：安定して活発な経済活動に向かうのなら歓迎
 - ③ 人権・価値問題：自分の内側を探られるようなら反対
 - → 中国自身は内政干渉だと受け取る。
- (2) 経済・貿易枠組み
 - ① 中国が加入することを歓迎する声（規模）
 - ② 中国と「感覚」に近い国々
 - * 原理原則問題と「観客」の問題

「自由で開かれたインド太平洋」

- (1) 軍事安全保障面での厳しい姿勢
 - クワッド、オーカスなど
- (2) 経済的な協力
 - ① 中国の一帶一路構想：経済をテコにした関係性
 - ② 開放性、透明性、経済性、財政健全性（安倍政権）
- (3) 先端技術面での「経済安全保障」
 - サプライチェーンを維持した形、対応方法
 - * 相互排除ではなく、「重なり」があり得る、という方向性

日本外交の課題

- (1) 世界を俯瞰できるのか、地域の「平和と安定」を保てるか
 - 米中対立 + 秩序動揺
 - → 領域ごとに細かい対応、またアジア諸国への対応
- (2) 安定的で持続的な経済貿易環境を保てるか。
- (3) 主権国家としてのbottom lineを堅持できるか。
- (4) 岸田政権の是々非々 + 「対話と協力」
 - 何をどのようにやるのか。依然不明。
 - 日本独自の対話の枠組みを作れるのか。
 - 外交部よりも「共産党」の時代。
- (5) 日中国交正常化50周年への対処。